

官民連携で子供たちの 「未来を切り拓く力」を育む

～アントレプレナーシップ教育を通じて、学校と社会がつながる～

科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課

はじめに

現代社会は、技術革新や国際情勢の変化などにより将来の予測が難しく、不確実性が高まっています。このような環境下において、教育に求められるのは知識を定着させることにとどまりません。子供たちが自ら問いを立てて、他者を巻き込みながら、失敗を恐れずに行動し、未来を切り拓く力を涵養することが重要です。このような力は、変化に適応するだけでなく、新たな価値を創造し、社会と積極的に関わる基礎力となります。

文部科学省では、アントレプレナーシップ教育（以下「アントレ教育」）を通じて、「自ら課題解決に向けてチャレンジし、他者との協働により解決策を探索したりすることができる知識・能力・態度」を育むことを目指しています。

※アントレ教育の全体像や考え方は、令和5年5月号「教育委員会月報」で紹介しています。ご覧ください。

▼教育委員会月報（令和5年5月号）

https://www.mext.go.jp/content/20230515-mxt_syoto01-000029781_0.pdf



アントレ教育がもたらす社会での学び

アントレ教育の最大の特徴は、教室内にとどまらず、社会で自身のアイデアを試することができる点にあります。既存科目で学んだ知識を課題やアイデアに結び付け、社会と連携しながら実践を積み重ねる機会は、子供たちの主体性を高め、自己の可能性を広げることにつながります。子供たちは、自身のアイデアを形に

する過程で学外の人と出会い、実社会のリアルな知識やフィードバックを獲得することにより、行動範囲を大きく広げることができます。

文部科学省では、内閣府が選定するスタートアップ・エコシステム拠点都市を中心に、全国約120の大学が持つ教育プログラムのノウハウを活用しながら、小学校・中学校・高等学校等へ教育の展開を図る「EDGE-PRIME Initiative」を推進しています。この取組は、大学と初等・中等教育機関との連携を通じて、主に「総合的な学習（探究）の時間」や「特別活動」などの中で実施しています。

（事例）県立千葉商業高校の総合的な探究の時間におけるアントレ教育の取組



令和7年1月8日から3月5日にかけて、千葉大学アントレプレナーシップセンター（旧千葉大学学術研究・イノベーション推進機構）と千葉県立千葉商業高等学校が連携し、本センターが開発した教材「解決アクションシート」を活用したアントレプレナーシップ教育プログラムを実施しました。本プログラムは、総合的な探究の時間の一環として行われ、生徒たちは、「ITで生活が豊かになる中で、高齢者のスマートフォン活用を促進するにはどうすればよいか？」というテーマのもと、

高齢者へのヒアリングを通じて、実社会で実際に悩みを抱える方々の声を踏まえたアイデアの提案を行い、現実の課題に向き合いながら、社会との関わりを意識した探究的な学びを深めました。

合計 320 名の生徒が本プログラムを受講し、課題解決力や主体的な行動力を育みました。

※「EDGE-PRIME Initiative」については、令和6年5月号「教育委員会月報」で紹介しています。ご覧ください。

▼教育委員会月報（令和6年5月号）

https://www.mext.go.jp/content/20240510-mxt-syoto01-000035696_11.pdf



多様なロールモデルとの出会い

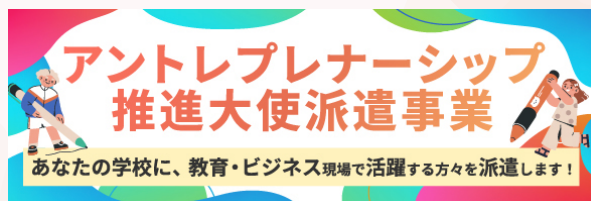
文部科学省では、学校現場でアントレ教育を導入する機会として、「アントレプレナーシップ推進大使」（以下「推進大使」）を外部講師として、全国の小学校・中学校、高等学校等へ派遣しています。現在、文部科学省では、約 260 名の起業家、地域で活躍する方々、そして研究者等を推進大使として文部科学大臣が任命し、全国の教育現場において活躍いただいております。推進大使からは、講演やグループワークなどを通じて、子供たちに「挑戦する意義」や「失敗を恐れずに行動することの大切さ」を伝えていただき、未来を担う世代の主体性と創造力の育成に大きく貢献しています。本取組は、子供たちが多様なロールモデルと出会えることに限らず、学校において産業界などの外部の人材を取り入れた授業を展開することが可能となり、子供たちへの教育機会の提供に加え、社会と学校を結びつけています。

令和6年度は、推進大使を全国の学校等に 164 件派遣し、約 15,000 名の小中高生等が受講しました。学校等からの期待の高まりを受けて、令和7年度は派遣件数を拡大し、500 件の派遣を予定しています（先着順）。

<講演の様子>



▼アントレプレナーシップ推進大使派遣のオフィシャルサイト



<https://www.mext.go.jp/entrepreneurship-education/>



官民連携でアントレ教育を学校へ

アントレ教育に関心を持ちながらも、「具体的に学校現場にどのように取り入れればよいか分からない」、「他校の先行事例を知りたい」と感じている教職員は少なくありません。そのような声に応えるために、令和7年3月に文部科学省と経済産業省で設置したのが「ジャパン・アントレプレナーシップ・アライアンス」（以下「アライアンス」）です。令和7年10月現在、主体的にアントレ教育に取り組む地方公共団体、経済団体等の計 20 団体が参画しています。このアライアンスでは、全国の教職員が容易に先行事例の情報を収集できる環境を構築するために、アントレ教育のプログラム情報や事例を掲載しているポータルサイトを開設しました。

アライアンスを通じて、好事例や外部人材との協働方法等が学校現場に共有され、一つの学校に留まらず、全国各地の学校が情報を得られる仕組みを構築します。各学校には、地方公共団体や産業界と連携した教育の実践機会として活用いただければ

と思います。

▼ジャパン・アントレプレナーシップ・アライアンスの
ロゴマーク



＜ロゴマークに込めた思い＞
全国の子供たちに
自分自身の翼で「世界を変える主体」
となって挑戦してほしい

▼ジャパン・アントレプレナーシップ・アライアンスの
オフィシャルサイト



[https://www.mext.go.jp/
entrepreneurship-education/
alliance/index.html](https://www.mext.go.jp/entrepreneurship-education/alliance/index.html)



おわりに

文部科学省では、子供たちがこれからの社会でどのような変化に直面しても、受け身の姿勢にとどまることなく、「自分の未来は自分でつくる」という主体的な姿勢を育んでいきたいと考えています。実社会との関わりを通じた学びは、子供たちの可能性を広げ、未来を切り拓く力となります。今後とも大学と連携した EDGE-PRIME Initiative、推進大使及びアライアンス等を通じて、学校現場と社会とのつながりを深め、子供たちが主体的に学び続ける環境づくりに努めてまいります。



教育委員会、学校現場の皆様におかれましては、このような取組を積極的にご活用いただき、ともに未来を担う子供たちを育てていきましょう。